

北小谷では3月でもパウダー三昧

北アルプス 蒲原山、真那板山（中退）山スキー

3月中旬、良い雪を求めて北小谷に行きました。天気が良く、春を感じながら、残り少ないパウダーシーズンを満喫。真那板山は、ルートどりを間違えて壁に当たり中退となりましたが、山スキーはしっかり楽しめました。

3月11日（土）：晴

冬型が緩み晴れ間がのぞく天気。新雪はない。道の駅のすぐ裏のデイサービスセンターの脇から里道を行くが、ここで偶然同じく蒲原山を目指す関西在住のRSSAの方と遭遇。雑談後、私たちが先行する。里道を登り小さな峠にでると日当たりの良い南斜面の里道には雪は無く10分ほどスキーを担ぐ。無人の大平集落を過ぎると紙すき山牧場の入口。グネグネの農道を適当にショートカットしながら登ると、約2時間で牧場に出た。好天のなか白く抜けた牧場に真っ直ぐなトレースを刻み登るのは気持ちいい。上部の牧場はアンジュレーションがあり美瑛の丘のようにきれいだ。ついでに、1本南側の尾根を登るカモシカが見れたり、飽きさせないルートです。

牧場から上部からは1411ポコの北西鞍部を経由し、疎林の尾根を登り6時間弱で蒲原山山頂。樹林内で展望はない。

登り時にチェックしておいた、1450mから牧場に降りる疎林の北東斜面を滑る。雪が重いが新雪を



新雪を楽しみます

【日程】

2017年3月11日（土）
～12日（日）

【メンバー】

田辺（L）、長山、田宮
（RSSA）

【地形図】

越後平岩、雨中、雨飾山

【記】長山、田辺



美瑛の丘のような紙すき山牧場

楽しむ。登り返しが少ないように、牧場の北縁の尾根ルートで下る。上段の牧場からの下りは、上部より雪が軽く、樹木の間隔、斜度全てがGOOD。3月でもまだまだパウダーいけます。

下部は、樹木の密度が高く、滑りに苦労しました。

3月12日（日）：晴

大網集落を越え、笹野集落の入口当たりから、スキーを履く。今日も良い天気だ。棚田を越えて、真那板山北東尾根に取り付く。数日前に多数で滑ったスキーのトレースが時々出てくる。登るにつれ斜度が増し、ラッセルも脛程度あり。天気も良く汗をかく。下りの滑りが楽しみ。

頂上台地まで後100mの1060m地点でさらに急斜面となり、この先は壁。これ以上登れない。東側へのトラバースし北尾根を登るルートを探察するも、急でトラバースが困難。一度下ってから、隣の尾根を登り直すしかない。もっと下から北尾根へ取り付くのが正解か。

さて、戻って登り直すか、雪が良いうちに滑るか相談するが、全員一致で速攻での滑りを選択。シールを外して、やや東側の樹林が疎なところを狙って滑り出す。



北東尾根の上部は壁。中退。

樹林の間隔は広く、斜度もあり、雪はクリーミーパウダー。楽しい。あっという間に下る。

下部は、既にザラメ雪で、小さい山ながら、季節を感じられる山スキーを楽しめました。（長山）



去年は積雪がないのに前日の降雪でどうにもならなかった北小谷。赤禿山と姫川温泉で里山逍遙を味わったが、今シーズンは王道里山スキーを楽しめた。

大平集落から蒲原山へのルートはけっこうやっかいでGPSを駆使した往路。そのおかげで、下りはいいラインを広大な景観とごきげんな雪でヤホッホー。真那板山も去年の藪斜面からは想像もつかないような夢の滑りとなり、里山滑りの奥深さを堪能できた。北小谷へ続けて足を運ぶことができたことに感謝。（田辺）

明星山に向かってパウダー滑り。

【行程】

3/11 道の駅小谷（7:30）～蒲原山（13:15/13:45）～道の駅小谷（16:15）

3/12 笹野林道入口（8:05）～真那板山北東尾根 Co1060 引き返し（10:30/10:45）～林道入口（11:45）

北アルプス 蒲原山山スキー

2年ぶりの山スキー復帰シーズン。12月からゲレンデ練習で気持ちを高めていたものの、2月は子守りの都合がつかず、3月半ばにしてやっと坂村さんの小谷計画に乗っていただけた。念願のパウダーに間に合うかな？

3月12日(日)：晴れ

前泊地では、前日から小谷入りしていた田辺さんたちに見送られ、木地屋の集落へ。数年前の成人の日連休、木下車が先導するウサギに翻弄され雪道を登れなかったことを思い出す。今回は季節が進み、お天気も上々で路面はノープロブレム。シールを忘れて翌日の山行が不安な子守り・工くんと、もともと困り顔のこちらも不安そうな1歳児・周に見送られてスタートした(今回は1日交代で子守り作戦)。それにしても人が多いなあ。RSSA「山スキー百山」効果!?

前回ベースを張った杉ノ平までは林道をショートカットしながら進む。木下さんのスタートダッシュは健在で、さすがの攻めのルート取り。名前とは違うブナ森の杉ノ平からは1度スノーブリッジで沢を渡り、一難場山の尾根に取り付く。と、ここで大田原さんのリードが放たれ、みるみるうちに遙か彼方へ…。本人曰く膝の怪我の後、数年ぶりの山スキーとのことで「皆さんの足を引っ張らないようにしないと」など言っておられたが、ええ、誰も信じていませんでしたよ。

順調に一難場山まで登高し、雪倉岳や朝日岳の真っ白な景色を楽しみながら緩やかな尾根を歩き蒲原山の北峰に到着。ピークは南に少し行ったところだが、ここまでで良しと全員一致で決定する。木下さんの提案で、北東方向1450mの傾斜が緩くなる辺りまで滑り、そこからトラバース気味に一



坂村リーダーの華麗なる滑降

【日程】

2017年3月12日(日)

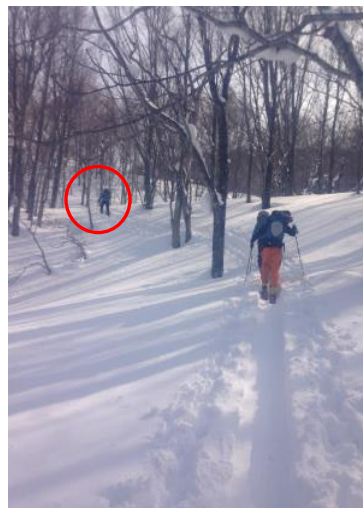
【メンバー】

坂村(L)、木下(SL)、大田原、小林、前田

【地形図】

越後平岩

【記】前田



リードが外れた！待って～

難場山まで戻ることにした。そうすれば登り返しが50～60mくらいで済むのでありがたい。

楽しみにしていた北東斜面の雪は極上で、皆で歓声を上げながら滑りあつという間に登り返し地点へ。小林さんに先行してもらい再び一難場山を目指してシール登高となったが、当初の思惑どおり快適に戻ることができた。一難場山からは概ね登ってきたルートを絡めながら滑ったが、西向きの斜面が主なので雪がどんどん悪くなり、

特にテレマークの坂村さんには試練の下りとなった。それでも1箇所北向きの斜面では、快適なツリーランパウダーを味わうことができ、久しぶりの粉雪滑走に満足まんぞく♪

2年ぶりの山スキーは、パウダーを楽しめたのはもちろんのこと、スキーチームの面々と北アルプスを眺めながらのシール登高も素晴らしく、復帰できて本当に楽しかったです。今シーズン、ザラメも1度くらいは行きたいものですが…どうなることやら。

【行程】

木地屋 (7:10) ~ 蒲原山北峰 ((11:10/11:40) ~ 木地屋 (14:00)

